

豊橋地域の食料産業クラスターと情報交換の場づくり

～クラスターフェアの開催と食農産業クラスター推進協議会の推進概況～

1 イベントの概要

2007年10月25日(木)、26日(金)の両日、豊橋サイエンスコア（豊橋市西幸町字浜池 333-9）において「東三河地域産学官連携フォーラム 2007」が開催された。

東三河地域産学官連携フォーラム 2007 は、愛知県豊橋市を中心とする東三河地域を対象に、地域の産業シーズ・技術シーズと地域の製品開発ニーズのマッチングや地域における産学官連携を目的に、農業、食品産業、工業等の多様な視点から、各種取組みを実施する中核機関が主催者となり、フォーラム、パネル展示、交流会などを実施するものである。

イベントの構成は、豊橋市の主催による「食農産業クラスター推進フォーラム」、独立行政法人中小企業基盤整備機構中部支部による「地域資源活用フォーラム in 豊橋」、社団法人食品需給研究センターによる「豊橋地域食料産業クラスター形成促進シンポジウム」が連携し開催され、その総括枠組みを愛知県及び株式会社サイエンス・クリエイトが主催となり「東三河地域産学官連携フォーラム 2007」として形成しているものである。

各主催者のイベントはメインホールにて開催され、メインホール前フロアでは、農業、食品産業、工業及びその関連団体等からなる 54 組織のパネル展示が期間中実施された。

フォーラムの参加者は、東三河地域から生産者、食品製造業者、機械装置メーカー、大学、公設試験研究機関、行政機関及び関連団体など、2 日間でおよそ 300 名に達した。

ここでは、地域食料産業クラスターの推進担当による事例報告及び食料産業クラスター形成促進を視点としたパネルディスカッション「豊橋地域食料産業クラスター形成促進シンポジウム¹」の内容を中心に、豊橋地域で活動する食料産業クラスター「食農産業クラスター推進協議会」の取組み、並びに、その他、食料産業クラスターを推進する上でのトピックとなる併催イベントを併せ報告する。

¹ 豊橋地域食料産業クラスター形成促進シンポジウムの概要

- (1) 地域食料産業クラスターの先進事例報告
やまがた食産業クラスター協議会、おかやま食料産業クラスター協議会、宮崎県食料産業クラスター協議会の活動紹介
- (2) パネルディスカッション
地域食料産業の産学官連携における技術開発及びマーケティング戦略～食料産業クラスター形成促進の視点から～



東三河地域産学官連携フォーラム 2007（メインホール）



東三河地域産学官連携フォーラム 2007（パネル展示会場）

2 豊橋地域食料産業クラスター形成促進シンポジウム

2.1 シンポジウムの趣旨

平成 19 年度、豊橋市を中心とした食料産業クラスター（「食農産業クラスター推進協議会」）が、株式会社サイエンス・クリエイトを中心とし設立された。当該クラスターは、平成 18 年度に策定された、豊橋市産業振興プランの「農商工連携プログラム」に基づき設立され、農業生産量が全国第 6 位である豊橋地域のポテンシャルを利活用し、生産者、食品産業者、地域自治体等の連携により推進されている。

今回のシンポジウムでは、新たに設立されたクラスター協議会に対し、主に農業生産地域の食料産業クラスター

一関係者を講師として、豊橋地域の食料産業クラスター参加者に対し、当該地域にあったクラスター形成の素地（要素条件）や農業生産地域におけるクラスター成功のための要件、食品分野における産学官連携や食農連携を講じる場合に想定される課題等を考えてもらう機会として、食料産業クラスターの事例報告及びパネルディスカッションを開催したものである。

2.2. 地域食料産業クラスターの先進事例報告

先進事例報告は、先ず、山形県農林水産部農政企画課 主査 小室 邦秀氏より、山形県で展開されているラ・フランス、さくらんぼクラスター等の活動紹介と、それに連携する山形県の取組みを紹介いただくとともに、県の担当者として、山形県の代表的な農産物の強み・弱みを内部環境・外部環境の視点から分析された結果及び売れる商品開発の方向性、取組みの推進フレームの考え方²について報告が行われた。

次に、おかやま食料産業クラスター協議会 佐藤 芳範コーディネーターより、岡山県地域食料産業クラスター形成と地域ブランドの形成について、協議会の概要、同協議会と連携するバイオアクティブ岡山の研究課題の内容および開発製品の概況について報告が行われた³。

最後に、宮崎県食料産業クラスター協議会 黒木英治主幹より、クラスター協議会の枠組形成の状況、クラスター連携による開発商品について報告が行われた⁴。



各県の食料産業クラスターの事例を報告する報告者
左から小室主査（山形）、佐藤コーディネーター（岡山）、黒木主幹（宮崎）

2.3. パネルディスカッションの開催

「地域食料産業の産学官連携における技術開発及びマーケティング戦略～食料産業クラスター形成促進の視点から～」と題して開催されたパネルディスカッションは、株式会社マーケティング ダイナミクス研究所 上野祐子 代表取締役がコーディネーターとなり、先の事例報告者3名に加え、社団法人食品需給研究センター 長谷川潤一がアドバイザーパネラーとなり実施された。

パネルディスカッションの論点は、主に、①食料産業クラスターを形成・展開していく上での問題点や課題、②生産地域のポテンシャルが加工技術と連携して行く上での研究・開発・商品化・市場化のプロセスにおける課題と枠組推進の中心となるコーディネーターの資質・能力といった内容となった。

この論点について、各パネラーからの実体験を踏まえた取組みのコメント等が話し合われ、最後に、豊橋食農産業クラスターが、地域のポテンシャルを利活用し、大学のテクノロジーとリンクすることで食農連携を実現して行くことへの期待といった方向性を取りまとめ終了となった。



上野祐子コーディネーターと需給センター長谷川



先進事例報告された宮崎県食料産業クラスターは、開発された商品など目に見える成果展示にもご協力いただいた。

² 別紙 ruo 「やまがた食産業クラスター協議会の事業推進体制～やまがた食産業クラスター協議会の取組み～」の図2で詳しく紹介。

³ 枠組形成及び開発商品等については、別紙 ruo 「岡山県の食料産業クラスター推進概況～おかやま食料産業クラスター協議会の取組み～」にて詳しく紹介。

⁴ 枠組形成及び開発商品等については、別紙 ruo の宮崎県の報告（各種）にて詳しく紹介。

3 豊橋食農産業クラスターの推進概況

3.1. クラスターの経緯と取組概況

豊橋食農産業クラスター推進協議会は、農業生産量が全国第6位である豊橋地域のポテンシャルを利活用し、生産者、食品産業者、地域自治体等の連携により、「食」と「農」をテーマに、豊橋らしさ「地域の特色」をアピール、消費者への信頼性を確保（安全・安心・環境への配慮）、消費者らが求める様々な付加価値の創造を基本指針として、農業・食品産業のみならず工業・商業を含む地域産業全体の発展を目指すことを目的に設立された。

設立以前から地域の食と農の連携及び先端技術の利活用に関する検討は行われ、平成18年度までは、豊橋市食農産業クラスターワーキングとして、大葉、うずら、キャベツ、トマトを対象に検討が行われてきた⁵。

フォーラム初日の10月25日には、メイン会場において、「食農産業クラスター推進フォーラム」と題し、活動報告が行われた。

豊橋食農産業クラスター推進協議会では、平成19年度の設立により、地域の食農及び先端技術を連携させ、5事業13分野にわたる開発プロジェクトを各省庁からの支援も受け実施している。特に地域自治体との連携は強く、豊橋市も「豊橋市産業振興プラン農工商連携プログラム」として、この取組みの一部を支援している。

豊橋食農産業クラスターの各事業とプロジェクト

(1) 食農教育事業

- ・豊橋田原食育体験講座
- ・豊橋田原食農教育推進フォーラム
- ・食農産業クラスター推進セミナー
(戦略的農畜産物・新商品開発セミナー、JGAP導入プロジェクト、食農技術科学講座)

(2) 新商品開発事業

- ・青じそ（大葉）加工研究会
- ・うずら加工研究会
- ・防災おでん開発研究会
- ・飲食店のメニュー開発プロジェクト

(3) 新技術開発事業

- ・IT活用型営農成果重視事業
- ・大葉選別機
- ・発光ダイオード活用施設園芸

(4) 販路開拓事業

- ・金属異物検出機器
- ・果実糖度・熟度非破壊測定器
- ・果物輸出
(「次郎柿」と「アールスメロン」のブランド向上を目的に、国際見本市出展、田原産アールスメロンの香港向け輸出、バンコク向け次郎柿輸出、台湾への次郎柿輸送テスト実施)

発信事業

3.2. プロジェクトの推進とコーディネーターの存在

上記のプロジェクトは、事業ごとに担当のコーディネーターを配置し推進されている。コーディネーターは、推進の状況と参加者の取組意識を客観的に評価することを目的に、豊橋地域以外のマーケティング・プランナー、技術開発指導者等を参集している。

プロジェクトを運営するための費用は、食料産業クラスター以外にも、技術開発のための競争的資金や中小企業地域資源活用プログラム、豊橋市の支援事業等を活用している。

3.3. 個別プロジェクトの紹介

フォーラム初日の10月25日の昼食時間を利用し、青じそ（大葉）加工研究会の主催により、本年度開発された「大葉」新商品試食会が開催された。

研究会で対象としている豊橋市の大葉は、本年度より開始された「中小企業地域資源活用プログラム」に採択されており、研究会のコーディネーター役である地域文化創造研究所（愛知県名古屋市中区松原3-16-21-6A）横山順子氏の指導のもと、地域食品製造業者が集結し推進されている。



新開発された大葉豆腐（試食会にて）



試食会に供された大葉パン

試食会会場に展示され、開発の経緯等も知ることができる。

⁵ 豊橋市食農産業クラスターワーキング及び大葉、うずらに関する詳細は、平成18年度「食料産業クラスターに関する地域等の取組み事例集～食料産業クラスターの鼓動～」p41～p46を参照。



対象物となっている大葉は、当該地域が全国第1位の生産量、年間102億円の生産額を誇る。このポテンシャルについて、地域食品製造業者の技能を活用し、新商品を開発しようとする試みである。

なお、平成19年度取組みでは簡易な商品化検討が行われ、以下に示した商品群がラインナップされている。今後は、素材の機能性や栄養、安全性等のエビデンス確保を目指す構想である。

青じそ(大葉)加工研究会 平成19年度の商品開発群

- ・青じそちくわ(ヤマサちくわ(株))
- ・青じそギョーザ(さくら foods)
- ・青じそパン(三遠パン屋マイスターズクラブ)
- ・青じそうどん(蕎麦匠まつや)
- ・青じそ寄せ豆腐((株)寺部食品)
- ・青じそゼリー(杉本屋製菓(株))
- ・青じそだんご((株)丸八製菓)
- ・青じそ焼酎(関谷醸造(株))等

3.4. 豊橋食農産業クラスター推進協議会の展開

社団法人食品需給研究センターでは、豊橋地域のクラスターについて、協議会を設立する以前の平成18年度から状況把握を行ってきた経緯がある。

平成18年度段階では、「豊橋市食農産業クラスターワーキング」と題し地域の生産サイドと食品製造サイドとにより、食と農の連携を中心に意見交換が進められていた。当時は、両サイドの意見の合意形成にも課題が多く

みられる印象であったが、一年を経過し、協議会の設立をむかえるにあたり、商品開発、シーズ技術の利活用、地域農産物の海外展開、参加者の育成支援など、多くの具体的な基本構想(ビジョン)が形成されるに至っている。

推進力の源泉は、原料生産地、技術シーズ(研究機関との結びつき)と言ったポテンシャルもさることながら、中核機関となっている株式会社サイエンス・クリエイト及び支援する豊橋市の存在、更には各個別のプロジェクトを差配する外部コーディネーターの役割が大きいと考えられる。

着手初年度ということもあり、目に見える大きな成果が得られるのはこれからといったところだが、クラスター推進に必要なビジョンが描かれていること、各セクターやコーディネーターの人材確保の成功及びその役割が明確になっていること等から、展開する多くのプロジェクトにおいて、成果達成が大いに期待されるところである。

【お問い合わせ】

株式会社サイエンス・クリエイト
 〒441-8113 愛知県豊橋市西幸町字浜池 333-9
 TEL 0532-44-1111 FAX 0532-44-1122

(文: 社団法人食品需給研究センター 長谷川 潤一)